

公益社団法人

日本眼鏡技術者協会 会報

No. 142

2013年(平成25年)秋号 9月発行



編集/発行 公益社団法人 日本眼鏡技術者協会

発行人 津田節哉 編集人 吉野勝

〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-6

TEL 06-4807-5070 FAX 06-4807-5009

URL <http://www.megane-joa.or.jp/>

E-Mail joa@maple.ocn.ne.jp

無断転載・転用・複製を禁じます

information(ステッカーご案内、アンケートについて)・・・2

議事報告(第3回通常総会)・・・・・・・・・・・・・・ 3

議事報告(理事会)・・・・・・・・・・・・・・ 6

事務局より・・・・・・・・・・・・・・ 7

消費者からのご相談・・・・・・・・・・・・・・ 8

国際部報告・・・・・・・・・・・・・・ 10

眼鏡学校生の研究発表・・・・・・・・・・・・・・ 11

認定講習会のお知らせ①②・・・・・・・・・・・・・・ 14



JOAのテーマ 眼鏡学の確立はJOA

i n f o r m a t i o n

本年度も眼鏡技術者国家資格推進機構とタイアップして、認定眼鏡士の国家資格化を目指して活動を展開しています。その一環として、消費者へPRするためのステッカー配布、また認定眼鏡士の皆様(店単位)へのアンケートを行っています。

ステッカー 送付について

国家資格化への動きを消費者の皆様に積極的にPRしてご理解を得ることが極めて重要です。今年度は目の形をモチーフにしたステッカーを作製しました。

同封のステッカーは、店内でお客様のよく目につくところに掲示していただき、「メガネの技術者に国家資格を」のPRにどうぞお役立てください。



アンケートへ ご協力を お願いします

すでに、受け取られたり、提出していただいた方も多いと思いますが、生涯教育、実技講習の会場、また通信講座の受講者に、「眼鏡実務に関するアンケート」の用紙を配布しています。

これは、「国家資格ができることが消費者や国民に与えるメリット、国家資格がないために生じるデメリットをデータとして表すことを厚生労働省や国会議員の先生方から求められている」ため、国家資格推進機構との共催で実施しています。このアンケートを基にした資料は国家資格の制定を求める上で、とても大切な資料となります。ご理解いただきご協力くださいますよう、よろしく願いいたします。なお、このアンケートは店単位の回答となっておりますので、ご注意ください。

「認定眼鏡士」 が商標登録 されました

「認定眼鏡士」が25年8月、商標登録となりました。眼鏡製作に関わる教育・サービスなどの指定役務で、第16類、第35類、第41類となっています。

第3回通常総会

日時／平成25年6月19日(水) 午後2時～4時
 場所／八重洲富士屋ホテル(東京)
 出席／社員(代議員、6月19日現在)109人中、
 出席70人、委任状提出31人

「眼鏡実務に関するアンケート」への協力を要請

公益事業区分は統合で承認

平成24年度事業報告(議案1)

各会議の開催状況、各部の事業活動について資料を読み上げて説明。また、会員数6,524名、認定眼鏡士登録者7,696名(平成25年3月31日現在)と報告。

平成24年度収支決算(議案2)

資料を基に収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表などについて詳細に説明した。監査報告を含め1、2号議案を一括上程し審議、拍手で承認。

平成25年度事業計画(議案3)

資料を基に詳細に説明。

平成25年度収支予算(議案4)

資料を基に説明。3、4号議案を一括上程し承認。

公益事業区分の統合化について(議案5)

公益社団法人への移行認定を受けた際(平成23年4月1日付)、公益事業として5区分について申請が認められ、その後2年間運用してきた。しかし、細分化したことで、区分ごとの収支バランスが取りにくいことが判明したため、公益事業を統合し、「公益事業1」として内閣府に変更の申請を行いたいと説明があり、協議の結果、了承された。

※報告事項・質疑応答は4ページ



通常総会冒頭の会長あいさつ

認定眼鏡士の国家資格化については、昨年の衆議院選挙後、自民党の先生方を中心に二十数名の議員の先生方にご理解をいただき、今後、議員立法を進めていくための準備はできている。しかし、実際に議員立法で進めるかどうかは、議員の先生方のご判断によることとなる。

その際、議員の先生方から「国家資格ができた場合の国民のメリット、できなかった場合のデメリットを数値としてデータ化してほしい」との要請を受けている。

単に言葉を羅列するのではなく、数値化することは大変難しいが、その作業の一環として生涯教育、実技講習会、通信講座の受講者に対してアンケート調査を実施したい。アンケートの内容は2つある。1つは、眼鏡店から眼科医へ照会している事例の内容、頻度、眼科医からの回答の有無と内容について現時点での状況を把

握したい。そして国家資格ができた後、照会件数、事例がどのように変化するのかをみていきたい。要は、国家資格ができることにより、眼鏡技術者と眼科医の連携がより密接になり、国民に対するビジョンケアがより適切に行われるであろうことを数値化したい。

もう1つは、安売りを標ぼうする店、メガネを雑貨扱いする店で作られたメガネを消費者が皆様の店に持ち込み、作り直すなどの経済的な負担を強いているような実態があれば調査しておきたい。支部長の皆様には、生涯教育の場で趣旨を説明の上、協力を要請していただきたい。

また、昨年度お願いした青年部・女性部の組織化について、特に青年層から意見の反映は具体的な活動も始まっており、そのような報告もいただきながら当協会の若返り、また将来へ備えていきたい。

(報告事項)

眼鏡技術者国家資格推進機構の最近の動きについて／5 ページ参照。アンケート調査の実施について／配布された実施要綱、アンケート用紙について、津田会長から説明があった。組織活性化特別委員会／平岩委員長からこれまでの検討経過、設置のための提案書について説明。各支部へ依頼したアンケートの結果では、青年部・女性部はない。このため、支部単独での組織化は困難で、ブロックまたは支部合同を単位として進めることが妥当。セミナーの開催やブロック会に各支部から青年・女性の代表者を同行するなど理解を深めてもらう。青年部・女性部の参加はあくまでも自主的なもので、参加者にメリットのある情報提供が望ましい。また、参加者同士の積極的なネットワーク化を図るため、フェイスブックなどのSNSの活用を検討する。国際部の活動／10月1日～4日に韓国で開催されるAPOC(アジア・太平洋オプトメトリー大会)への参加を呼び掛けたほか、世界オプトメトリー会議について報告した(10ページ参照)。

◆質疑応答(カッコ内は回答)／①原発の問題もあり、自宅(店)に帰りたくても帰れない方が数名いらっしゃる。年会費を免除いただけないかと2年前の総会でも申し上げたが、「2年間の猶予がある」ということで結論はでなかった。現

在もそのような方がいらっしゃるが、年会費について考慮いただけないか。(当初、申請があれば23年度会費を免除するとの対応はしているが、十分なことはできていないかもしれない。現地の状況が十分把握できていないこともある。そのような申請があればお聞かせ願ひ、できるだけのことはさせていただきたい。現在も1件、申請がでていますが、被災状況の確認や他県の被害と比較し、検討しながら対応していかなければならない。遠慮なく申し出てください)②収支決算報告は、結果的に黒字決算になったことで、公益社団法人として関係監督官庁からどのような指導があったのか。(公益事業の過去2年間の利益について指摘を受けており、これを平成25年度以降できるだけ早く処理することで了解をいただいている。協会としては利益を出したくて出したわけではないので、真摯に受止めて着実に利益の解消に努める)③平成25年度予算の収入・支出の根拠が細かく記載されているが、24年度決算数値とかなり開きがあるが。(認定眼鏡士の更新者数が各年度により大きく違っている。24年度は最も多い年に当たり、登録料収入、教育事業収入も大きな額となる。支出もそのための教本などが多額の支出となっている。25年度は認定眼鏡士登録者数が少ないため、各収入、支出も少なめの予算となっている)

感謝状贈呈

永年、支部長として活躍され、退任された佐藤實氏(前岩手県支部長)、石橋直氏(前千葉県支部長)、金子勝重氏(前神奈川県支部長)、依田秀穂氏(前山梨県支部長)、川倉敏信氏(前富山県支部長)、中川正仁氏(前三重県支部長)に感謝状を贈らせていただきました。

当日ご出席いただいた佐藤氏、金子氏、川倉氏には、津田会長から感謝状ならびに記念品が手渡されました。



眼鏡技術者国家資格推進機構の動き

岡本育三理事(同機構代表幹事代行)から、推進機構の活動について同機構会報を基に報告がありました。

基本的にはロードマップに従って活動を進めている。政治活動としては、推進機構の幹事、技術者協会の理事が中心になり、数人の国会議員の先生方から眼鏡技術者の国家資格化について理解をいただける見通しになった。

一方、厚生労働行政に精通した自民党代議士に面会し、国家資格制度の必要性や諸外国の資格制度の実態についてご理解いただくよう活動した。今後もこれらの活動を継続し、国家資格制度の必要性について深い理解をいただくとともに推進機構の活動に対してご協力いただけるように努力を続ける。7月の参議院議員選挙では政治団体である日本眼鏡士連盟で比例区、地方区各1名の参議院議員候補者の推薦を予定している。

委員会活動としては、まず資格対策委員会では、①教育機関である既存の学校の内容の均一化②資格制度導入時における眼鏡業務従事者の移行措置③国家試験問題作成について④新しい眼鏡学校(学部)設立条件などを検討した。組織拡大委員会では、加盟店数は約7,000店で昨年末に比べて横ばい。様子見の店舗があるので加入の呼び掛

けを再度行う。レンズ・フレームメーカー、卸業界にもご協力願ひ、加盟店舗数の増大に努力する。広報委員会では、推進機構メンバー店に対して、2013年3月までにポスター8,000枚、ステッカー8,000枚、リーフレット200,000部を配布。生活者に対して活用できるリーフレットは、すでに不足状態になったので数万部の増刷を行う予定である。一般生活者向けのイベントがある場合には積極的に参加していく。また、業界内向けにも組織拡大委員会と協力して、国家資格制度推進の意図を十分理解いただけるような活動を展開していく。

今後の活動として、政治的活動に関しては昨年12月の総選挙後活性化してきているので、積極的に活動を継続する。業界内の活動がやや鈍ってきているので、より活性化していく。資格対策委員会の活動は眼鏡学校協会と連携しながら進めていくべき問題が多いので、これからも密に連絡を取りながら進めていく。

全体的には公表されているロードマップに従って、今後も推進活動を進める。

講演会

午後4時から同所で講演会も行われました。

眼鏡学校生の研究発表としてキクチ眼鏡専門学校卒業(現研究員)の本田陽祐さんの「経線不等像視の論理的検証」を今枝同校講師が代理講演。続いて、生涯教育でも講師をしていただいている内田豪氏に「眼鏡技術者に望むこと」のテーマで講演いただきました。



「経線不等像視の論理的検証」木田陽祐氏
キクチ眼鏡専門学校 卒業(代理講演者:今枝大同校講師)



「眼鏡技術者に望むこと」内田豪氏
めがね技術コンサルタント、東京眼鏡専門学校非常勤講師

理事会

日時／平成25年5月8日(水)午後2時～4時
 場所／ニューオーサカホテル(大阪)
 出席／理事25人中、出席23人、欠席2人。
 監事2人中、出席2人。

総会の議案などについて協議

眼鏡実務に関するアンケート調査実施へ

第3回通常総会について(議案1)

案内内容、平成24年度事業、同収支決算(監査報告含む)とも承認。**質疑応答**()内は回答①総会の懇親会費が無料だが、費用削減のために参加者から一定額を徴収してはどうか。(公益社団法人に移行後は、交通費を負担しており26年度以降の検討課題としたい)②収支決算報告で支部事業費や組織強化事業費はかなりの額が消化不十分のようだ。(47支部あるため支部単位で少額でも合算するとそれなりの額になる。本部では、決算してみないとわからないのが実態。これに対して監事からは中間決算で支部の執行状況を把握するとの意見もある。残った支部剰余金を一旦、本部に吸い上げる方法を考えていたが、支部の反発が大きいことが想定されるため実施できていない。今後はこの方向での実施が強く求められている。また、組織強化事業のように未達成の事業は、今後各事業部ごとに事業計画を確実に執行するよう各部長に指示したところだ)意見①支部助成金は一人当たり2,500円だが、少額で事業計画ができない。3,000円程度にして残った場合は回収するような対策が必要ではないか。意見②通信講座受講料が予算対比大幅に伸びた理由を総会までに調査いただきたい。

公益事業区分の統合について(議案2)

公益社団法人への移行認定を受けた際、公益事業5区分の申請が認められたが、区分ごとの収支バランスが取りにくいいため、公益事業を統合し「公益事業1」として内閣府に変更申請したいと説明。協議の

結果、了承。**質疑応答**①公益事業区分を統一することはやむを得ないが、本来の公益事業区分ごとの収入、何にいくら使って公益事業を行っているのか、今後も分析は必要だ。(ご指摘はもっともで、公益社団法人の原理・原則を変えるものではない)

アンケート調査の実施について(議案3)

作成費、回収の郵送料などを調査研究事業費で賄うことなどを説明。調査について生涯教育講習会で支部長が説明し10日後をめどに回収。**質疑応答**①会場で回収してはどうか(過去3ヶ月間のデータを分析する必要がある、必ず持ち帰り正確な回答をいただきたい)②処方箋に対する対応は対象にしないのか。(今回はそこまで踏み込まない。また今回のアンケートは個人ではなく店単位であることも徹底してほしい)

就業規則改正(議案4)

一部文言の訂正を説明。承認。

(報告事項)

眼鏡技術者国家資格推進機構の最近の動きについて／①機構全体の動き②資格対策・組織拡大・広報・経理財務の各委員会活動③今後の活動について報告。**平成25年度PR事業**／①当協会オリジナルクリアファイルは教育特集号と併せて送付②24年度のリーフレット、ポスターは全て事務局に保管、注文があれば対応③目をデザインしたステッカーの作成を検討。**会員数ならびに認定眼鏡士登録者数**／会員数6,524名、認定眼鏡士登録者7,696名(平成25年3月31日現在)。**国際部報告**／WCO年次一般代表者会議について報告。

更新には、3年間に3回の受講が必要です。なるべく毎年1回受講していただく方がスムーズに更新できます。14、15ページにIOFT開催期間中に同会場で開催される認定講習会をご案内しています。

IOFT会期中以外にも認定講習会は開催予定です。詳細は、教育特集号に掲載していますのでご参照ください。また、時間や交通の便などで講習会場へ行けない方のために通信講座があります。お申し込みは、教育特集号に同封している申込用紙にご記入の上、受講料を添えて現金書留で事務局までお送りください。



469(視力)選手権を開催

徳島県めがね商連合会・協会徳島県支部

徳島県めがね商連合会と徳島県支部は、10月5日、6日の2日間、あすたむランド徳島で「日本初・469(シロク・視力)選手権」と「目の科学展」を開催予定です。

469選手権は、屋外ステージから469m先の風車の丘に設置した視力表や動物の標本を使った指標を見てもらい視力を競ってもらおうというもので、最後に優勝者・優秀者を決めて表彰することです。遊びを通じて視力に興味をもってもらうというのが狙いとなっています。

なお、今回の催しは、めがね塚(同県葛城神社) 建立15周年の記念事業の一環として開催されます。



切手の「メガネ!メガネ!メガネ!」展

東京「切手の博物館」で9月29日まで

東京・豊島区にある切手の博物館では、9月29日まで「メガネ!メガネ!メガネ!」展を開催しています。その数、約100カ国から集められた多種多様な眼鏡に関する切手が800点余り。

一般的なメガネのほか、サングラス、ゴーグル、ルーペ、顕微鏡、望遠鏡など、あらゆる眼鏡を描いた切手を紹介。メガネをかけた有名人やキャラクター、名前にメガネが付くメガネザルや眼鏡橋などの切手、またメガネをかけたお洒落な男女、思わず笑ってしまうデザイン、ルーペで覗くほど小さくメガネが描かれているものなどもあるそうです。また、スーベニアコーナーでは、メガネをかけた人物やメガネを描いた切手を販売。

なお、サイトのページを印刷または画面表示させて提示すると記念品のプレゼントがあるそうです。

■ 開館時間：午前10時30分～午後5時

■ 休館日：月曜日(祝日の場合も)

■ 会場：切手の博物館1階 企画展示室

〒171-0031 東京都豊島区目白1-4-23

TEL：03-5951-3331 (JR山手線・目白駅)

■ 観覧料：大人200円、小・中学生100円、障害者無料

※毎月23日の「ふみの日」は無料(ただし9月は月曜日休館のため翌24日が無料)

ホームページは、「切手の博物館」で検索、または<http://www.yushu.or.jp/museum/>





消費生活センターなどを通じてのお問い合わせ・ご相談

消費者の方からのご相談・お問い合わせについては、各地域の消費生活センターなどを通じて受け、消費者対策委員会（亀井正美委員長）からの回答を同センター宛てに返送しています。

※回答は一般向けに専門用語の補足説明などを付け加えていますが、誌面では省略しています。

相

（すでに解決済みの相談ですが、同センターから今後の参考にしたいと問い合わせがありました）

老眼と遠視用に、遠近、中近、老眼用のメガネを大手メガネチェーン店で2年間に10本作ったが、よく見えず。いずれもゴミが入ったように目がゴロゴロし、斜め上にフレームのツルが見えて不快だった。

先日、眼鏡技術者のいるメガネ店に行くと、斜位が原因でプリズムを使うと改善するといわれ、メガネを新調したらよく見えるようになった。

質問1 眼鏡技術者の方は、「斜位やプリズムについては、だれでも知っている」とおっしゃっていたそうですが、一般的にそのようなものでしょうか。

質問2 今回は相談者が大手メガネ店に強く抗議し謝罪があったようで、これまでのメガネ代金の返金は希望されませんでした。このようなケースで損害賠償請求はできないでしょうか。相談者はこの間、眼科に行き、目の異常はないそうです。（練馬区消費生活センター 25.1.8）

答

質問1について。認定眼鏡士は教育を受けている時から、斜位やプリズムの勉強は当たり前のようになっています。また、毎年行っている生涯教育講習会においても、たびたび採り上げられています。

眼鏡技術者なら誰でも知っているといってもいいのですが、なかにはパートやアルバイトのような店員や簡単な社員研修だけで屈折測定や接客をしている店もあるようです。したがって、そのような店は斜位やプリズムについて文献でみたことはあっても、メガネを作るための測定や調製はできないと思います。

なお、認定眼鏡士は基本的には3年制以上の眼鏡学校の教育に加え、その後も毎年講習会の受講を義務付けられており、新しい知識や技術のレベルアップを図っています。

質問2について。損害賠償について当協会として関わることはできませんし、このケースがどうなのかは法律の専門家ではありませんので、お答えできません。

事務局 認定眼鏡士のPRグッズご活用ください

- オリジナルクリアファイル／20枚 1000円（送料込）
- リーフレット／100部 1,000円（送料込）
- ポスター（A2）／2種1組で1,000円（送料込）



相

市内の60歳代の女性で「平成24年8月に購入したメガネを使用して9カ月余り。先日メガネを外そうとしたところ鼻パッドのネジが取れてパッドが外れた。購入して約9カ月目に壊れるのは、当初から品質に問題があったのではないかと。不良品であれば新品と交換してほしいが、販売店では無料で修理するとのこと。修理に応じるしかないのか」という相談。

当方（青森県消費生活センター）としては、購入後9カ月経過しているので、消費者の使用頻度や使用方法なども関係し、不良品と断定するのは難しいと考えている。相談者からは、品質に関する相談窓口の有無、またはこれまでの経緯でフレームの品質について何か情報をいただけないものかと、質問があった。

※相談者は、店に医師の処方箋を持参し、購入したとのこと、金額や店舗名までは教えてもらっていない（青森県消費生活センター 25.4.3）

答

メガネフレームは、販売後も分解できることを前提として製造されています。そのため、溶接やカシメたりせず、ネジによる組み立てになっています。鼻パッドは、装用者に合わせて大きさや形を変える、また新しいものと変えるなどのため、ネジ止めで交換できるようになっているのが普通です。

ネジによる組み立ては、当然自然に緩むこともあり、使用状況にもよりますが、数カ月または1年程度を目安にネジの緩みの点検が必要になってきます。時にネジが取れ、パッドが落ちてくることがあります。

原因は、①振動でネジが緩んでしまう②雄ネジの山が潰れる③雌ネジが広がりネジを留まらなくなってしまう、のいずれかです。

①はネジを入れ直せば解決します②はほとんど起こりませんが、ネジを換えて入れ直せば解決します。①②とも緩みにくいネジと換えればベターです。軽く接着剤を付ける方法もあります。

どちらにしても、フレームの欠陥とか不良品とまで言えません。通常はお詫びとして上述の作業で了解いただいています。もちろん無料です。今回も①②のどちらかと思われ、眼鏡店の対応は妥当だと思います。

③もまれにあります。最初から問題があった可能性もあります。この場合は、ネジの交換ではすみません。フレーム自体の交換が必要なことが多いと思います。今回のケースは、交換をせずに直るのですから③ではないようです。そうであれば、眼鏡店の対応は常識的だと思われます。

今回のようなケースは、眼鏡販売において決して特殊な例ではなく、定期点検をしていないメガネフレームでは比較的起こりやすいものです。もちろん急に部品が外れたりすると、使用者は驚いたり不審に思うということは販売側として理解しなければいけないことです。ですから、販売に際してはこのような可能性とそれを防止するための定期点検の必要性の説明が必要です。

もし今回の販売店が、その説明を怠っていたとすれば、その部分については責められるのかもしれませんが。また品質についてですが、前述のようにネジの緩みは当然あるので、緩んでいれば締めれば済むことです。それが、締めようにもネジ山が甘くて十分なトルクで締め込めない、あるいは締めてもわずか数日で緩んでしまうなどの場合に、はじめて品質の問題が想定されます。

今回のケースは、まずはネジの締め込みを行った上で、しばらく様子を見ていただくことが第一段階だと思います。「販売店では、無料で修理に応じる」と言っているようですが、具体的にはネジを無料で交換することだと思います。もともと、その時々点検でネジを交換したり、鼻パッドを交換したりしながら、数年間使っていくのがメガネです。ネジを新品に交換してもらい、一定期間使用して様子を見て初めて不良品かどうかの判断となります。品質云々はそのあとの問題です。



2013 WCO(世界オプトメトリー会議) 報告

金井国際部部長

WCOの二年に一度の総会は、スペインオプトメトリー協会(OPTOM)の招きにより4月18日～21日にスペイン・マラガで開催された。期間中OPTOMの年次総会、ヨーロッパ・オプトメトリー・オプティクス学会の年次総会と学術プログラム、ヨーロッパ・オプトメトリー・オプティクス会議の年次大会、検査機器の展示会などが並行して開催された。会場のバルセロ・マラガホテルは世界40カ国から300人を超える参加者で賑わい、大きな大会となった。

WCO総会には、アジア・太平洋地域など世界6地域からの代表のほか、会員各国の代表者等多数の参加があった。総会のほかWCOの執行部会議への出席や総会に先だって開催された委員会(パブリック・ヘルスコミッティー)に出席。さらに滞在中、アジア・太平洋オプトメトリー会議(APCO)の役員会が開催されるなど多忙なスケジュールとなった。アジア・太平洋地域からは、香港工科大学のDr. ジョージ・ウーWCO直前会長夫妻、Dr. カーリー・ラムAPCO事務局長、フィジーからシャミーム・ラザック

APCO副会長のほか、オーストラリア、ネパール、インド、ニュージーランドの代表が参加した。



■ WCO 総会、WCO 執行部会議 ■ 現在 WCO 参加国数は 49 カ国、団体は 89 組織と更新。今総会でトーナ会長(スウェーデン)が退任し、カナダの Dr. スーザン・クーパーが新会長に就任した。また、ナイジェリアの女性、Dr. ウダック・ウドムが次期会長に選出された。これで3代続けて女性がWCOの会長に就任することになった。アメリカの年次報告によると、女性オプトメトリストの比率が65.4%で、男性35.5%のほぼ2倍。WCOは明らかにこの傾向を反映し完全に女性主導型になっている。ジョージ・ウー教授はWCO直前会長としての任期を満了し退任。ウー教授はWCOの最も古いメンバーで、グローバルなオプトメトリーの推進に最も貢献してきたので惜まれる。夕食会では、オーストラリアのDr. プライアン・ホールデンがオプトメトリーへの永年の功績が評価され、「特別貢献賞」を受賞。また、アンティグア(西インド諸島)のDr. ジリア・バードが地域の緑内障予防啓蒙活動で「インターナショナル・オプトメトリスト賞」を受賞した。2013年秋の執行部会議は、中東ヨルダンの首都・アンマンで開催予定。

■パブリックヘルス委員会■ 白内障、緑内障、黄斑変性など眼固有の疾患に伴う視力障害の拡大および急速に進行している高齢化やライフスタイル、特に食生活の変化に伴い、糖尿病、動脈硬化症、高血圧症の頻発とそれらがもたらす重篤な視力障害の拡大が世界的に社会問題化している。その様な流れの中であって、ヘルスケアの面でオプトメトリーの果たす予防医学的役割は極めて重要になってきた。単に視力のケアだけではなく、地域社会のヘルスケアに果たす役割が強調され、オプトメトリーが今後いかに地域社会に浸透するかが課題となっている。今後、教育・訓練による人材の養成や啓蒙活動がWCO最大の関心事で、「パブリック・ヘルスコミッティー」はWCOの中心的存在となっている。

■APCO役員会■ 今年10月の総会で私(金井会長)の任期が満了となり会長職を降り、同時にジョージ・ウー教授がAPCOの直前会長を退任することになるので、新たな執行部の組織が必要となる。また、本年10月1日～4日韓国で開催される第19回APOCの準備状況が確認された。日本からの積極的な参加が期待されている。

第19回APOCのスケジュール、登録などの詳細は、<http://www.asiapacificoptometry.org/19thapoc.html>をご参照下さい。

眼鏡学校生 の研究発表

当協会では、眼鏡技術の調査・研究事業の一環として、眼鏡学校生への研究助成を行っています。これは、優秀な眼鏡技術者の育成にも繋がるもので、卒業論文などを選考し、各校から優秀者を選出しています。24年度の研究発表(3校)の概要をご紹介します。なお、紙面の関係上、内容は抜粋、表や実験結果は一部のみ掲載です。

若年性片眼 IOL 挿入眼の遠近両用眼鏡について — 私自身の体験例 —

日本眼鏡技術専門学校
山田 学さん

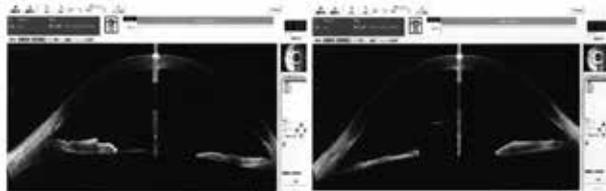
はじめに「筆者は高校2年生の時にサッカーの試合で右眼を負傷し、外傷性白内障となり、IOLを挿入することとなった。その後両眼にコンタクトを使用していたが、近点のバランスにズレが生じ、近点を見る時は正常な左眼しか使っていないことがわかった。そこで、遠方、近方ともに両眼の視力が得られる遠近両用眼鏡を右目に装用してみたが、装用感が悪く、左右のバランスには何が一番よいのかを左右の加入度を変えて実験し、その結果を報告する。また、本校の眼科実習で私自身の眼の左右差について特にその構造的なことを学んだので紹介する」と説明。次に、筆者の検査データや処方値などを明記し、実験へ進む。

実験では「①左右で度数の違う遠近両用レンズ(R/ADD1.50)(L/ADD1.00)を装用してみた。この状態だと片眼だけに遠近両用レンズを装用する場合よりもだいぶ楽になったが、まだ少し見え方に違和感があった。②左右とも同じ度数の遠近両用レンズ(R、L共にADD1.50)を装用してみたが、今までで一番楽な見え方となった。今までよりは左右度を揃えて使用することで楽になると感じた。左右に遠近両用レンズを装用するのは今回が初めてだったので、もちろん最初はレンズを通して見ることに違和感があった。しかし、30分ほど装用していると、だんだん慣れてきて遠方を見る時はも

ちろん、近方を見る時も、いつもなら使っていない右眼がしっかりと使えて、両眼視していることを自覚ができた。③さらに近点をもう少し近づけたいと考え、左右度をADD2.50まであげることにした。近点が20cm近くまで見ることができ、細かい文字が両眼視できて楽だと感じる。さらに実験データを得るために、今回は実際に眼鏡を作ることにした。そのためにまず、正しい矯正に必要な度数(PD R:28mm L:30.5mm)を桂先生(指導講師)と共に測定した」としている。

結果は「(R 1.5 × S-0.50 C-0.25 Ax155 ADD2.50) (L 1.5 × S ± 0.00 C-0.50 ADD2.50 0.5 Δ BD)」。IOL挿入眼は乱視がありコンタクトだけだとコの字テストでどうしても左眼より薄く見えてしまっていたが、C-0.25のレンズを足しただけで同じ濃度で見えるようになった。IOL挿入眼においては乱視の補正はかなり重要だという結果になった。さらに日生病院にて眼球の断面を撮影、左眼の虹彩に比べて右眼の虹彩が内側に凹んでいるのがわかる」と写真(下図)を示した。

最後に「れいこ眼科クリニックにて眼軸長の測定結果、眼軸長の測定結果は、左眼のデータでは水晶体がグラフに出ているが、右眼はIOLのためグラフに表示されない結果となった」と述べている。



眼球の断面撮影写真

低加入度眼鏡装用時の調節機能の変化

専門学校
ワールド オプティカル カレッジ
三好由華さん

諸言として、「調節力が十分ある若年者を対象に、調節機能解析装置アコモレフ Speedy-iを用いて近見時の調節機能を他覚的に測定し、眼の疲れを訴える人の特徴をまとめるとともに、低加入度眼鏡使用時の調節機能の変化を検証した」と説明。

次いで「アコモレフ Speedy-iは、オートレフのような通常の屈折値の測定に加え、視標提示位置を変えた時の調節反応量と毛様体筋の緊張度を他覚的に測定する装置である。これには2つの測定モードがあり、1つは遠見屈折値を起点に視標を無限遠 ∞ 、1 m、50 cm、33 cm と光学的に移動させ、被験者に0D、1D、2D、3Dの4ステップの調節刺激を与えたときの屈折値を測定するSCRモードである。もう一つは、眼後50 cm、無限遠 ∞ 、2 m、1 m、67 cm、50 cm、40 cm、33 cmの設定で、0.5D刻みで8ステップの調節刺激を与えるAMFモードである。装置は提示された視標距離にピントを合わせようとしたときの調節反応量と、その調節を維持するための毛様体の緊張度を測定し、FKマップとして表示する」と解説。

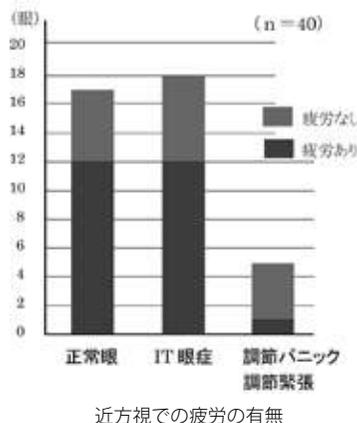
さらに「FKマップの説明をした後、調節機能の代表的な7つのタイプを記載。

続いて、方法として「実験は、遠見屈折値を起点にして調節刺激を与えた時の調節機能状態を測定し、次に遠見屈折値に+1.00Dを加えた度数設定で測定した調節機能状態と比較した。測定モードは、既存の調節状態を分類する早見表のモードに合わせSCRモードとした。複数回測定することによる被験者の疲れの観点からもSCRモードが適切と考えられた。被

験者は、18～27歳の男性12名、女性9名の計21名(42眼)である。調節力は8.0D以上あることを確認した」と説明している。また、測定手順は「①遠見屈折値を測定する②調節機能をSCRモードで測定する。(片眼測定時間は49秒)右眼測定後、15秒閉眼して調節の影響を解除した後、左眼を測定した。両眼測定後は1分閉眼して休んだ③調節刺激を減じるために、遠見屈折値に加入度数(Add)+1.00Dを加えた度数設定で、同様に調節機能を測定した。右眼測定後、15秒閉眼して休み、左眼を測定した」と説明。

結果の判定は、「梶田雅義監修の『FKマップ早見表』を用い、FKマップの特徴から調節状態を分類しようとしたが、その判定は判定者の主観によるところが大きいことが分かった。そこで、グラフを点数化して比較することを試みた。まず、各カラーバーについて、緑色を0点、黄色を1点、赤色を2点として点数化した。また、調節刺激量が0Dと1Dの範囲を『領域A』、2Dと3Dの範囲を『領域B』とし、各領域の点数を集計して判定を行った。その合計点数と点数分布の特徴から、判定条件を記述している。

結果と考按を述べた後、「アコモレフ Speedy-iを用いて調節機能を測定し、その結果を点数化して症状を分類する方法を考案した。IT眼症と判定された眼に、加入度数を加えると調節緊張が軽減されることが他覚的に確認できた。このことは、IT眼症が近視の弱補正やリラックス系レンズで眼の疲れが軽減できる可能性を示唆するものだ」と結論づけている。



まず目的として、不等像視の検査法の経緯や欠点、問題点などを文献を引用しながら紹介。

不等像視を測定する方法として、「本邦では一般的に NAT が普及しており、これを垂直方向に呈示して被検者の不等像視を決定している (Figure2-a)。しかし、左右の眼鏡度数の組み合わせによっては垂直方向のみの呈示は適さないと考えられる。眼球光学系の特性上、屈折性非正視眼の矯正においては矯正レンズの度数が上がれば上がるほど網膜像は拡大、もしくは縮小を呈する。そして、経線不等像視が問題になるのは乱視を矯正する時であり、その乱視は角膜や水晶体などの屈折系に起因する。したがって、眼軸長が同じであるならば、不同視が最も大きな角度において、最も大きい不等像を知覚している可能性があるだろう。左右の眼鏡度数の組み合わせから不同視が最も大きい角度を導き出し、被験者に対してどの方向に NAT (New Aniseikonia Tests) を提示すべきかについての論理的な検証を試みる」としている。

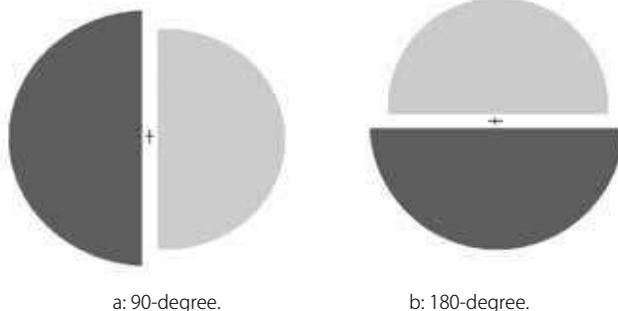
次に、経線不等像視の定義として、いくつかの章に分け、経線不等像視の求め方、極値となる角度の決定、続いて経線不等像視軸の変化として、 $R=1$ の場合、さらに $R < 1$ の場合について説明や解説などを述べている。

まとめとして、「冒頭で述べた問題点に加え、やはり眼鏡度数の組合せによっては NAT を垂直方向のみに呈示し、その

測定値を不等像視として処理することは適切でないと考えられる。臨床的に不同視の程度が 2D 以上からだとな種々の問題を引き起こすとされているが、本研究で見てきたように、一見 2D 以上の不同視がない場合でも、乱視軸の組み合わせによっては意外な角度で 2D 以上の差を生み出し、臨床問題となる程度の不等像を知覚する可能性があると考えられる。そのため、被検者が違和感を訴えた際には経線不等像視の存在を疑ってみることが必要」とした。

さらに、文献を引用し「NAT が他の直接比較法より優れている点の一つとして、経線不等像視を測定できる点を挙げているが、どの経線に傾けて呈示するのが有効なのかといった基礎研究はこれまでに行われていない。その意味で、本研究によって理論的検証を行えたことは、今後の経線不等像視測定において多くの指針を与える試みだと確信している。しかし、不等像視の成立機序は光学的要因のみで決定されるわけではなく、網膜の視細胞から電気的刺激として外側膝状体を経て視覚中枢で処理されるまでのさまざまな因子で決定される。本研究は度数差だけに注目した理論値であり、実験によって理論値通りになるのか否かは

検証していない。つまり、不同視が大きい角度で最も大きい不等像を知覚するのかが否かは不明である。そのため、今後も引き続き経線不等像視の基礎研究が必要となってくるだろう」と締めくくっている。



a: 90-degree.

b: 180-degree.

Figure2 NAT as the stimulus

認定講習会のお知らせ①

リードエグジビジョンジャパン・福井県眼鏡協会主催「IOFT 講習会」

※このほかの IOFT 講習会を受講されても、認定眼鏡士 更新・進級のための単位にはなりません。

■日時・会場 2013 年 10 月 9～11 日 (IOFT 開催期間中)、東京ビッグサイト

■主 催 リードエグジビジョンジャパン(株) / (一社)福井県眼鏡協会

■講 習 1 「中・上級者レベルの横田流パーフェクトフィッティング術」
～フレーム各所を自在に調整、たった 10 分でお客様のハートをつかんで離さない～

日時 / 10 月 9 日(水) 午前 10 時 15 分～午後 1 時 15 分 (3 時間)

講師 / 横田進氏 (株)さいたま眼鏡技術研究所 代表取締役社長)

■講 習 2 「眼鏡店での屈折測定の後とその対策」

日時 / 10 月 9 日(水) 午後 2 時 30 分～4 時 (90 分)

講師 / 関真司氏 (キクチ眼鏡専門学校 教授)

■講 習 3 「明日から出来る、家族顧客獲得に
繋がるキッズビジョン&ビジョントレーニング」

日時 / 10 月 9 日(水) 午後 4 時 30 分～6 時 (90 分)

講師 / 井上敬康氏 (㈱井上 メガネの井上 代表取締役)

■講 習 4 「新しい視環境に対応出来る眼鏡レンズの選択手法

～測定データからみる悩み別、解決法とは～

日時 / 10 月 10 日(木) 午前 10 時～11 時 30 分 (90 分)

講師 / 内田豪氏 (めがね技術コンサルタント、東京眼鏡専門学校 非常勤講師)

■講 習 5 「今だから差をつけろ! 『笑顔の出るフィッティング』 そのカンどころ」

日時 / 10 月 11 日(金) 午前 10 時～午後 1 時 (3 時間)

講師 / 吉野勝氏 (㈱ヨシノ眼鏡店 代表取締役、日本眼鏡技術専門学校 教務部長)

■講 習 6 「累進眼鏡を究め、目指せ! 地域一番店」

日時 / 10 月 11 日(金) 午後 1 時 30 分～3 時 (90 分)

講師 / 和田修氏 (累進眼鏡科学研究所 所長)

■講 習 7 「2 種類の動体視力徹底解説!」

～ KVA 動体視力と DVA 動体視力の異なる視機能について～

日時 / 10 月 11 日(金) 午後 3 時 30 分～5 時 (90 分)

講師 / 飯島隆氏 (株)東京メガネ スポーツビジョンセンター室長)

■受講料・単位 ①受講時間 3 時間 (1 単位) / 1 人 7,000 円 ((公社)日本眼鏡技術者協会会員)

※教材費ほかを含む。10 月 5 日 0:00 以降の申込みは 1 人 8,000 円

※会員外で認定講習会として受講の場合は、上記受講料に 6,000 円加算

②受講時間 90 分 (0.5 単位) / 1 人 4,000 円 ((公社)日本眼鏡技術者協会会員)

※教材費ほかを含む。10 月 5 日 0:00 以降の申込みは 1 人 5,000 円

※会員外で認定講習会として受講の場合は、上記受講料に 2,500 円加算

■申込方法 同封の「IOFT 招待状」をご覧ください

認定講習会のお知らせ②

日本眼鏡学会 主催「第17回オープンセミナー」

IOFT 会期中に開催される日本眼鏡学会のオープンセミナーで、全セミナー受講で 1 単位となります。16 ページのお申込用紙でお申し込みください。

■開催日時 2013 年 10 月 10 日(木) 午後 1 時 30 分～午後 5 時 00 分(予定)

■開催場所 T F Tビル906 (東京都江東区有明3-1 T F Tビル東館9F)

■メインテーマ 「快適な眼鏡フレームを目指して」

■内 容 ●テーマ：「眼鏡フレームの素材、構造の変遷」

内 容：これまでのフレーム素材、構造などの変遷と、最近の新素材の特徴、新しい構造デザインの紹介などを含めて、総括的にレクチャーする。

講 師：大川善裕氏 / 専門学校ワールド オプティカル カレッジ

●テーマ：「3D デザインのメリットと将来の可能性」

内 容：三次元 CAD によるデザインがもたらすメリットは多い。3D-CAD を用いたデザインの手順と金型製作の流れを解説し、その 3D データを用いた 3D プリンター活用など、今後の可能性を提案する。

講 師：田淵光一氏 / クリエイトスリー

●テーマ：「力学的なフレームの解析」

内 容：メガネフレームの設計はデザイン重視で行われることが多く、強度やバランスなどは過去の経験に基づいて判断され、客観的に評価されることは少ない。フレームを微小な要素に分割して各要素にかかる力とひずみを連続計算することで全体の変形や力のかかり方を力学的にシミュレーションする有限要素法を紹介する。

講 師：金子弘氏 / 専門学校ワールド オプティカル カレッジ

●テーマ「最近の加工フィッティング事情」

内 容：新しい素材やデザインの登場で、レンズ加工やフィッティングのしにくいフレームが増えている。このようなフレームを扱うときの注意点を解説する。

講 師：吉野勝氏 / 日本眼鏡技術専門学校

■単 位 4 テーマ受講で 1 単位

■受講料 一般受講者 5,000 円 (当日受付にてお支払いください)

※日本眼鏡学会会員は無料 (正会員 1 名、賛助会員 3 名まで)

■申込方法 16 ページの申込書に必要事項をご記入の上、日本眼鏡学会事務局あてに FAX してください。折り返し、受講ハガキが送付されますので、当日ご持参ください

■受講証 セミナー終了後にお渡しします

■申込締切 10 月 4 日(金)

日本眼鏡学会事務局：FAX 03-5818-1870

年 月 日

日本眼鏡学会御中

日本眼鏡学会主催
第17回オープンセミナー受講申込書(一般用)

2013年10月10日のオープンセミナーを受講したく、下記の通り申し込みます。

貴社(店)名： _____

受講者名： _____

ハガキ送付先ご住所：〒 _____

電話番号： _____

(公社)日本眼鏡技術者協会 会員用

- この年次セミナーは、(公社)日本眼鏡技術者協会の認定講習会です
- 認定講習会として受講される方は、(公社)日本眼鏡技術者協会会員番号
または認定眼鏡士の登録番号をご記入ください

会 員No. _____

または

認定眼鏡士登録No. _____

※この用紙にご記入後、10月4日(金)までにFAXで日本眼鏡学会事務局までお申し込みください。

複数参加の場合は、お手数ですがコピーしていただき、それぞれお申し込みください。

折り返し、受講ハガキをご返送しますので、セミナー当日にご持参ください。